

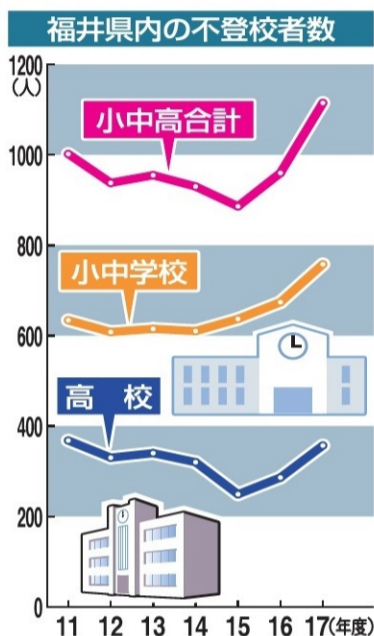
不登校6年ぶり千人超

県内17年度 小中758人、高校357人

文部科学省が25日公表した2017年度の問題行動・不登校調査結果によると、福井県内の小中学校と高校を合わせた不登校者数は前年度から155人増の1155人となり、6年ぶりに千人を超えた。児童生徒千人当たりの不登校者数は小中学校が11・7人で5年連続の増加、高校は15・9人で2年連続で増えた。

(小林真也)

【1面に本記、27面に関連記事】



小中学校の不登校者は758人(84人増)で内訳は小学校177人(39人増)、中学校581人(45人増)。高校は357人で71人増えた。千人当たりの不登校者数は小学校4・2人(1・0減少)、身体的、社会的要因で1年間

不登校の定義は、児童生徒が何らかの心理的、情緒的、身体的、社会的要因で1年間

に30日以上学校を欠席すること。病気や経済的理由は除いている。不登校者の増加が続いていることについて県教委は「友人関係をめぐる問題や学業の不振に加え、家庭の状況が要因のケースが全国と同様に増えている」と分析。「理由が不明確でない不登校者も増えており、対応が難しくなっている」としている。

高校の中途退学者も9人増の225人となり、全体の10%だった。理由は「進路変更」が92人と最も多く、次いで「学校生活・学業不応」65人、「学業不振」33人だった。